

未来へつなげ!

地域を支える

地元

「愛」



知立で生まれ育ち、地元を愛する30代の経営者たち。飲食、農業、障がい者就労支援など業種はさまざまですが、共通するのはコロナ禍に負けない前向きな姿勢。「テイクアウトフェスティバル」を企画した永井さんからは順番に、地域で活躍するキーマンをリレー形式で紹介してもらいました。

バトンスタート!

エントリー No.1

うなぎの旭屋 専務取締役

永井翔太さん

うなぎの旭屋

知立市上重原町小針121-3

☎0566-81-0284

昼の部/11:00~14:00

夜の部/17:00~20:00

定休日/水曜・木曜の夜の部



「テイクアウトフェスティバル」を企画
コロナ禍における知立の功労者

16人の会員がいる一般社団法人知立青年会議所(以下J.C)。J.Cは全国各地に支部があり、町作り、人作りをテーマに活動しています。知立J.Cで50代目理事長を務めるのが、鰻店「旭屋」二代目店主の永井翔太さん。知立J.Cでは、今年度予定していた催事が

コロナ禍ですべて白紙に。それでも前を向こうと、永井さんは小学校の同級生である斉藤元樹さんとともに、市内の飲食店が参加できるイベント「テイクアウトフェスティバル」をJ.Cとして開催しました。「テイクアウトフェスティバル」はすべてJ.C会員のボランティア精神で運営。8月末に開いた第3回では、飲食店からだけでなく会場周辺の住民からも「来てよかった」と反響が聞かれました。年内に、さらに3回の開催を計画していて、「自分たちも手伝いたい」と協力を申し出る企業も現れるなど、支援の輪が広がっています。

永井さんが継ぐ旭屋は「知立の弘法さん」で知られる遍照院のすぐ隣。1960年の創業以来、毎月21日の弘法さんの月命日には出店して参道を盛り上げます。炭火で焼いた鰻は皮がパリッと香ばしく、「特上」でも2300円とリーズナブルです。コロナ禍は「テイクアウト文化が根付くきっかけにもなる」と永井さん。おいしい鰻を多くの人に食べてもらえる機会にしたいと前を向きます。



外はカリッ、身はふっくらと焼き上げる鰻が好評です

エントリー No.2

有限会社わかば 取締役CLO

太田光彦さん

障害福祉サービス事業
就労継続支援A型・B型
事業所「空(テン)」

知立市新林町北林6-1

☎0566-82-7894

定休日/なし



無理なく持続可能な就労支援
知立の福祉を代々支える

障害福祉サービス事業「わかば」でマネージャーを務める太田光彦さん。祖父と両親が老人保健施設を運営し、8年前に母親とはじめたのが障がい者の就労支援サービスです。太田さんは30歳まで建築業界で働いていた、異業種からの転職組。就労する利用者には「ど



空では利用者が自分たちの手でシイタケ栽培に取り組みます

んな仕事をしてもらおうか」と思案していたところ思いついたのが、年間を通じて仕事量が安定しているシイタケ栽培でした。その縁で知り合ったのが、ひと足早くシイタケ栽培にチャレンジしていた斉藤元樹さん。斉藤さんにアドバイスをもらいながら、太田さんは各施設を視察し学びを深めました。

太田さんは、利用者の指導を担当するスタッフの教育係。自身は直接利用者を指導しないため、スタッフと利用者の距離、話し方、伝え方に心を砕きます。同時に「仕事へのモチベーションを高めること」を重要視し、利用者の8割が5年以上働いています。それまで「仕事に行きたくない」と話していた利用者が、「仕事に行こう!」と前向きになる姿に利用者の家族から感謝の言葉が届きます。

準備と段取りはスタッフが行いますが、シイタケ栽培に関する仕事はすべて利用者任せます。太田さんは「障がい者施設のなかには、周囲のスタッフが手を貸してしまうケースも多いと思います。業務量過多はいけません。業務量が多すぎると声を出して、仕事を任せて『明日も頼むぞ』と声を掛けることがやる気につながります」と話します。「誰もが自信をもって働ける場所がもっと増えたらいい」と太田さんは福祉の面から地元知立を支えます。

エントリー No.3

株式会社八百種商店 取締役

斉藤元樹さん

八百種商店

知立市宝町刈谷道117番地

☎0566-81-0259

営業時間/6:00~18:00

定休日/日曜



卸の仕事を通じて人をつなぐ
知立の「食」のアイデアマン

永井さんとは小学校の同級生であり、「テイクアウトフェスティバル」の発起人でもある斉藤元樹さん。西三河地域にある70の得意先に野菜を中心とした料理用の材料を届ける「八百種」の五代目です。取引先は町の喫茶店から病院、高齢者施設と幅広く、毎朝5時

30分から6台の配送車が食材を届けています。18歳で家業を継いだ斉藤さんは、現在36歳。大正元年創業の八百種以外に、しいたけ栽培を手掛ける株式会社斉藤商店、過疎地のトマト農家の販売代理などを行う有限会社トマト、団子店などを運営しています。「自宅1階が仕事場だったので、小さいころから夏休みは家の手伝い。継ぐしか選択肢はありませんでした」と笑います。「毎日いろんな得意先と会って、信頼関係を築いていくのが楽しい」と話しますが、同時にコロナ禍に胸を痛めてきました。

飲食店の力になればと永井さんに相談した斉藤さんの思いが、イベント開催のきっかけとなりました。馴染みのある飲食店に声をかけ参加を募るなど、裏方として尽力しています。また、「地元ゆかりの食材をPRしたい」と給食センターと意見交換。今年春には、知立名物の切り干し大根を入れ、衣にご当地キャラクター「ちりゅっぴ」の絵柄を入れたメニューを保育園給食に登場させました。

「子どもたちが家に帰り、家族に話すことで地元野菜の認知度が高まるはず」。今年の12月3日は、ちりゅっぴの誕生日であり、知立市市制50周年の記念日。当日は市内小・中学校の給食にメニューが並びます。「食」をテーマに斉藤さんは地域を元気にしていきます。



野菜、果物を扱うため地元食材へ強い思いが強い斉藤さん

エントリー No.4

株式会社山六 代表取締役社長
おかしカンパニー知立店/安城店/
豊明店/岡崎店 経営

加藤道章さん

おかしカンパニー知立店

知立市新池2丁目106

☎0566-82-0075

営業時間/10:00~19:00

定休日/なし



みんなの憩いの時間を提供
知立の子どもたちが憧れる場所

2020年度、永井さんからのバトンを受けて知立J.C51代目理事長となるのが、株式会社山六代表取締役社長の加藤道章さんです。知立J.Cでは、「テイクアウトフェスティバル」で使用した会場を活用して来年度も新たなイベントができるよう計画。加藤さん



お値打ちなお菓子のアウトレット品を探す楽しみがあります

も自身が理事長となる来年度を前向きに捉えています。

株式会社山六は、スーパーや工場、売店などへの菓子の卸売を中心に、ディスプレイストア「おかしカンパニー」を西三河エリアで4店舗経営しています。安価な品揃えで、子ども会などイベント向けの大量パッケージ販売はもちろん1個からも販売。小遣いを握りしめた子どもが頭の中で必死に計算している微笑ましい光景が見られる、まちの子どもたちの大好きな場所です。

店の売上について聞いてみると、「菓」もり需要もありますが、地域などでのイベント利用がないので、売上は昨年並みで推移しています」と加藤さん。それでも「大人も子どもも、お菓子を食べる瞬間は息抜きの間だと思っています。おかしカンパニーではコロナウイルス感染拡大防止対策を図り、消毒の推奨、店内の換気に気を付けています。安心して足を運んでもらいたい」とPR。生まれ育った愛着ある知立と一緒に発展していきたくて笑顔を見せます。

WANTED

自薦・他薦 不問

我こそは!という知立への地元愛あふれる方を紹介して下さい。

ご連絡先▶「ちるるくらぶ」編集室
0562-85-1077/chilulu@chucu.co.jp



バトンリレーは紹介で続く予定
次回をお楽しみに...! See you next time.